

# 釧路南ロータリークラブ会報

第4回 例会報告 2008.7.25 通算1263回

・点 鐘 長倉副会長

・誕生祝

森 伸一郎会員 S 37. 7. 29 (46歳)

福井 克美会員 S 24. 7. 25 (59歳)

北村 甲三会員 S 31. 7. 25 (52歳)

・ロタリーソング

「手に手つないで」



ソングリーダー 菅井紀之会員



福井会員

・入会記念祝

佐藤 輝治会員 S 61. 7. 25 (22年目)

高橋 康成会員 S 61. 7. 25 (22年目)



高橋会員

・会長挨拶

長倉副会長



本日は、北上会長が所用の為欠席です。

7月は、識字能力の向上を図る目的で、1997～'98年度R Iの強調事項に指定された。さらに1997年7月の会合で理事会は、毎年、7月を識字率向上月間と定めた。地域の識字水準が、その地域の生活水準に直結する、という観点から、この月間に読み書き、計算の出来ない人たちを援助するために、ロータリー地域社会共同体、ローターア

クトクラブ、インターアクトクラブ、世界社会奉仕、ロータリー・ボランティア、その他の既存のプログラムを通して、識字率向上に取り組んでいく。この月間は、2006 - 07 年度より 3 月に変更された。

## ・幹事報告



- \* 根室西 RC より 8 月プログラムと会報を拝受しております。
- \* 別海 RC よりクラブ活動計画書と会報を拝受しております。
- \* 分区青少年交換事業分担金に関して。

## ・委員会報告

### 親睦委員会

#### ・本日のニコニコ献金

佐藤 輝治会員	入会記念祝として
高橋 康成会員	入会記念祝として
森 伸一郎会員	誕生祝として
福井 克美会員	誕生祝として
北村 甲三会員	誕生祝として

### 出席委員会

会員 28 名 14 名出席メイキャップ 12 名 93%

## ・本日のプログラム

### 「夢をかたちにメディアの未来」

担当 メディア委員会

## ・識字及び識字率について

渋谷諭会員



ロータリークラブで長年活動している会員の方々は、「識字」に関してはご承知だと思いますが、入会まもない会員私もそうなのですが聞き慣れない言葉だと思います。ご承知の方ももう一度再確認と言う事で「識字」に関して説明申し上げます。

「識字」とは、簡単に日本語で申し上げますと文字を読み書きし、理解できること。英語では「リテラシー」と言うそうです。文字に限らずさまざまな情報の読み書き、理解能力に言及する際には、「リテラシー」という表現が利用されるようです。日本では読み書きとも呼ばれました。読むとは文字に書かれた言語の一字一字を正しく発音して理解出来る（読解する）事を指し、書くとは文字を言語に合わせて正しく記す（筆記する）事を指す。これに計数する事を指す算盤（算盤は本来は計算のための道具であるが、転じて計数そのものを指すようになった）を加えて読み書き算盤とも呼んだ。日本では江戸時代の庶民向けの教育機関であった寺小屋の主要な科目であった。一方、かつてのヨーロッパでも文字が読めるとはラテン語ができるという意味だった。また日本の識字率は数百年にわたってきわめて高く、1400 年代に日本に来た朝鮮通信使の申叔舟(しん・しゅくしゅう)は、日本人は男女身分に関わらず全員が字を読み書きすると記録している。さらに、江戸時代には世界でダントツ 1 位の識字率を誇っていたことが明治の発展につながったといわれている。この識字能力は、現代社会では最も基本的な教養のひとつで、

初等教育で教えられる。生活のさまざまな場面で基本的に必要になる能力であり、また企業などで正式に働くためには必須であります。文字を読み書きできないことを非識字といい、そのことが、本人に多くの不利益を与え、国や地域の発展にとっても不利益になることがあるという考えから、識字率は基礎教育の浸透状況を測る指針として、広く使われている。世界の識字率は第二次世界大戦後、順調に向上しているがまだ世界の全ての人がこの能力を獲得する教育機会を持っているわけではない。主にユネスコなどが識字率の向上を推進している。私どもロータリークラブとしても識字率向上は1986年以来、国際ロータリーの強調事項です。地域社会で、読み書きを向上させるプロジェクトを支援しています。地域の識字水準が、その地域の生活水準に直結する、という観点から、この月間中に読み書き、計算のできない人々を援助するために、ロータリー地域社会共同体、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブ、世界社会奉仕、ロータリーボランティア、その他の既存プログラムを通して、識字率向上に取り組んでいます。国際ロータリーは、世界的な識字推進団体・国際読書協会と協力し合い、世界的な識字推進を目指す社会奉仕プロジェクトを開発中です。ユネスコ（国連教育科学文化機関）によると、世界で9億人以上の人々は読み書きができません。その3分の2は女性です。成人、そして子どもに向けて、読書のプログラムを企画することや学校に本を寄贈すること、そして地元の図書館を援助することが要請されています。文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字を理解できない人がたくさんいます。おかあさんが読み書きできるようになると、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くこともできるようになります。このような理由から、ロータリーでは、成人女性に対する教育も支援しています。オーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がC L E（Concentrated Language Encounter）という言語教育法を開発しました。ウォーカー博士はロータリアン（ロータリークラブの会員）です。C L Eというのは、例えば、子どもたちなら画用紙からお面をつくったり、人形をつくら

りという簡単な工作をしながら文字を教えていきます。成人の女性なら、料理や裁縫、手工芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、そういった作業をしながら文字を学んでいきます。楽しいこと、実益に結びつくようなこととともに文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。また、費用も少なく、短い期間で学ぶことができます。したがって、多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。文字が読めないと良い仕事に就くことができず、生活は貧しくなります。貧しいが故に、その子どもたちは学校に通うことができず、文字を覚えることもできません。そして、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを強いられます。こうした貧困の連鎖を断ち切るためにも、ロータリアンたちは、世界中のいろいろな地域で、すべての人たちが読み書きができるよう、活動を続けています。



**Make Dreams Real**  
**夢をかたちに**

#### ・次回のプログラム

8月1日（金）

「夏祭り例会」夜間例会

会場 釧路全日空ホテル

担当：親睦活動委員会

・点 鐘 長倉副会長

今週の会報担当：山本美穂会員